

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立西郷小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・児童は、落ち着いた雰囲気の中で、友達への思いやりの気持ちを持ちながら、協力して学校生活を送ることができている。しかし、言葉遣いや友達への「さん」づけなどの習慣化が不十分であるため、全職員で共通理解した指導を継続していく必要がある。 ・校内研究を柱として児童の「主体的な学び、進んで表現する姿」を目指した授業づくりに取り組んだことで、自分なりの表現ができる児童が増えた。しかし、授業が教師主導となりがちになる面があり、今後は児童が主役となる授業のあり方について研修を深めていきたい。 ・職員による自発的なOJT研修、講師を招聘しての研修会、研究発表会への参加等により、互いに情報共有しながら学び合う職員の姿が見られるようになった。しかし、若手職員が増加していることから、次年度も更なる研修を計画していきたい。 ・情報モラルについての指導を積極的に行ったり、PTAと連携して保護者への啓発となる研修を計画したりして、児童の望ましい生活習慣の形成に力を入れていきたい。		
2 学校教育目標	教育目標『ともに学び、ともに伸びゆく西郷っ子の育成』校訓 ～学び 愛し 翔る 西郷小～		
3 本年度の重点目標	①協働的な学びを通して、進んで学び、よく考え、自分なりに表現する子どもの育成 ②思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合う子どもの育成		

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○校内研の取組により「授業力が向上した」と回答した職員80%以上 ○「学習中に、自分の考えや意見を自分らしい表現で伝えることができた」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、「話し合う活動」のステップ3を目指す。 ・校内研究を柱に、「子どもの出番が増える授業づくり」に取り組む。	A	・3回設定した職員間の授業交流週間は、授業力向上に有効であった。1月のアンケートで肯定的な回答をした職員は100%で成果指標達成。 ・授業の中で絵や図、式、言葉で表現する時間を十分に確保することを継続してきた。1月のアンケートで肯定的な回答をした児童は85%で成果指標達成。	A	・校内研修などを通して授業力向上の成果が着実に積み重ねられており、「自分らしい表現」に継続して取り組んできたことで、確かな成果が見られる。 ・児童主体の授業づくりが着実に進んでいる。限られた時間の中で、教師の適時・的確な指導こそが大切であることを共有してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて「友達に対して優しい言葉掛けや優しく接することができた」と回答した児童85%以上	・ふれあい道徳で、B主として人との関わりに関すること(6)親切、思いやり、(10)相互理解、寛容をテーマとした授業を保護者や地域に公開する。 ・人権週間の取り組み等を通して人権意識を高める。	A	・全校朝会や人権集会、放送による「いいこと紹介」「友達のいいところ見つけ」「やさしさの積み木」などを継続して行ってきたことにより、96%の児童が優しい言葉かけや優しく接することができた。成果指標達成。保護者アンケートでも95%が思いやりのある言動ができていると回答。	A	・優しい言葉かけや態度についての評価が、児童、保護者ともに上昇しているのは、学校における「いいところ見つけ」「やさしさの積み木」等の継続実施が効果を上げていると思われる。 ・放送による紹介はともよい取り組み、児童の意欲を高めることができている。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 ○児童アンケートで、「学校は楽しい」と回答した児童90%以上	・職員研修を行い、開発の生徒指導やいじめ、虐待などについて見識を深める。 ・毎月の「心のアンケート」、年2回はいじめアンケート、Q&Aアンケートの実施分析により、いじめの早期発見や安心安全な学級づくりに取り組む。	A	・児童についての情報共有を定期的に行い、組織的に対応したり、毎月の心のアンケートや年2回はいじめアンケートをもとに予防や早期対応に努めた。またいつでも誰にも相談できるよう全職員で児童への声掛けに努めた。いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員94%、「学校は楽しい」と回答した児童91%で、成果指標達成。	A	・「心のアンケート」や「いじめアンケート」の実施回数が多いことが、いじめの早期発見につながるだけでなく、いじめを生まないための抑止力としても大きな役割を果たしている。 ・いじめは目が届かないところで行われていることが多い。相談できない児童が放置されないようしてほしい。 ・「学校が楽しい」と思えるのは、先生方や友達との関係性がよいのだと思う。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・「ほめるからはじめる。はじまる。」を合言葉に、教師が児童のよさに目を向け、ほめることを意識して教育活動に取り組む。 ・学校行事、体験的な学習や総合的な学習等を通して、将来の夢や目標につながるよう、「あてど」と「ふりかえり」のある学習活動を意図的に仕組んでいく。	A	・子どもの出番を意識した授業づくりやほめることを意識した校内の取り組みによって、自己肯定感や学校生活への意欲を高めることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%で、成果指標達成。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%で、成果指標達成。	A	・自分の夢が言えなくてもいい、学習を通して自分のことを考え、自分の良さや特徴に気付く体験をたくさん積み重ねてほしい。 ・夢や目標を持っている児童が多くてよかった。夢や目標があれば、叶えるために何をするか自分で考えることにつながり、意欲も向上すると思うので、たくさん褒められて伸びてほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「8時間以上の睡眠がとれている」と回答した児童90%以上 ○「体の成長を考えて、よりよい運動・食事・睡眠を意識して取り組んでいる」と回答した児童80%以上 ○「ゲームやテレビ視聴について、家庭で決めたルールを守れている」と回答した保護者80%以上	・各委員会の児童による、児童や保護者に対する啓発活動(放送でのよびかけ等)を行う。	B	・睡眠については、保健だよりで特集を組んで注意点や理想的な睡眠時間を知らせたことで、児童の意識が高まり、前回のアンケート結果と比べて「十分に睡眠が取れている」と答えた児童の割合が増加した。生活リズムの見直しに取り組んだ家庭も多く、全体として睡眠の質が向上している傾向が見られた。 ・各家庭でゲームやテレビの視聴時間について具体的な目標を設定して取り組んだ結果、自分で時間を意識して行動できる児童が増えているが、設定した数値目標を達成することはできなかった。 ・「8時間以上の睡眠がとれている」と回答した児童90%で、成果指標達成。 ・「体の成長を考えて、よりよい運動・食事・睡眠を意識して取り組んでいる」と回答した児童85%で、成果指標達成。 ・「ゲームやテレビ視聴について、家庭で決めたルールを守れている」と回答した保護者は68%で、課題が残った。	B	・保健だよりの特集記事や各家庭での目標設定が、少しずつ効果を発揮している。ベストな睡眠時間は、児童一人一人である。睡眠時間の確保のため、ゲームやスマホの時間を減らすよう、PTAと連携してほしい。 ・幼児のころからスマホなどを使い慣れ、依存傾向にあるため、ルールを決めて守れないのではと感じる。
	●「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携ICTを活用した啓発学習を行う。 ・朝食摂取率のアンケートから実態を把握し、朝食摂取の励行を図る。 ・肥満傾向の児童のご家庭へ個別指導の案内を行い、了承を得られたご家庭に対して情報提供などの支援をする。	A	・各学年で栄養教諭と連携した授業を実施し、給食指導と学習内容を関連づけることで、日常の食生活へと学びをつなげることができた。 ・「健康に良い食事をしている」児童91%で、成果指標達成。	A	・栄養教諭と連携した実践により、朝食抜きの児童は減っている。 ・学校給食は栄養面もしっかり考えてあり、児童の健康にもよい。朝食の準備、内容について、保護者への啓発の必要性を感じる。。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・金曜日を定時退勤日とするとともに、個人でも定時退勤日を設定することを推奨する。 ・夏季休業中の研修は、期間を決めて設定し、年休を取得しやすくする。	B	・ワークライフバランスの充実に向け、業務改善を進め、教職員が心身ともに健康に働き続けられる環境を整えた。機会あるごとに、時間外在校等時間を確認するよう声掛けをし、退勤時刻を見通して計画的に業務に取り組むよう促した。 ・年間平均では、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限45分を管理職以外のすべての職員が遵守できた。 ・年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数は13日で、目標の14日以上を下回った。	B	・夏季休業や冬季休業中に連休が取りやすくなったことはとても良い。 ・学校は他の職場に比べると年休が取りにくいと思う先生方はまだ多いだろう。
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上し、学級経営や授業に反映させることができたと感じる教員80%以上	・講師招聘による、特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・児童、保護者の困り感に即時対応するため、ケース会議を開催する。 ・UDに基づき教育環境づくりを目指し、特別支援学級を参観する。	A	・特別支援学級の連絡会や、サポートチームでの情報交換を毎週行い、児童の支援や対応について考えることができた。その結果、特別支援教育についての専門性を高めることができ、学級経営や授業に生かすことにつながった。 ・特別支援教育に関する専門性が向上し、学級経営や授業に反映させることができたと感じる教員100%で、成果指標達成。	A	・特別支援教育の取組は年々進化し、先生方の専門性が高まっている。児童一人一人に寄り添い、粘り強く、愛情のこもった支援が行われている様子が伝わってくる。配慮を必要とする児童も学校行事に参加しているが、先生方の細やかな気配りが随所に生かされ、児童が自然に行事へ溶け込んでいることが印象的。 ・個別の対応など専門性が必要で大変だと思う。授業に反映させることができているようなので、しっかりチームで考えられている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域社会との協働・連携	○地域人材を活用した教育の推進	○教育活動において地域人材を活用し、教育活動が充実したと感じる教員80%以上	・学校行事等において、積極的に学校支援の依頼を行い、地域の教育力を学校教育に生かす。	A	・教育活動で支援が必要だと感じる場面において、いつでも地域人材を活用できることを周知した。 ・教育活動において地域人材を活用し、教育活動が充実したと感じる教員100%で、成果指標達成。 ・今後はさらに学習内容等質の向上にも結びつけていく。	A	・西郷地区は、校区の方々が協力的であるという定評がある。談話間かせボランティア、外部指導者の導入をはじめ、地域人材の活用がよくなされている。 ・今後も地域社会との連携は続けてほしい。

5 総合評価・次年度への展望	●…果共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ・学力向上の取組として、「子どもの出番が増える授業づくり」に取り組み、考えや思いを表現できる児童が増えつつある。しかしながら、児童の学力の定着には課題が残った。次年度は、児童の実態を踏まえ、子どもが主体的に考え、表現する場を充実させた授業づくりを進めるとともに、計算力や漢字などの基礎・基本の確かな定着を図る取組にも力を入れていく。 ・望ましい生活習慣の形成のため、各委員会等で啓発活動に取り組む、児童や保護者の意識は向上している。今後も睡眠時間の確保のため、家庭での時間の使い方について、児童や保護者に分かりやすく伝える啓発活動の充実を図っていく。 ・心の教育、特別支援教育についての職員の専門性の向上、地域社会との連携については、一定の成果が見られる。引き続き効果のあった取組を継続していく。職員の働き方改革については、意識向上のための取り組みについて、全職員で知恵を出し合いながら推進していく。
----------------	---